



安佐南区の人口 / 244,581人 (341人増)  
安佐南区の世帯数 / 107,145世帯 (1,364世帯増)  
令和3年3月末現在 (前年同月比)

# あさみなみ

## みんなで交通事故をゼロに!

区では交通事故が多発しており、特に歩行者の事故が後を絶ちません。自分と大切な人の命を守るために、みんなで交通事故をなくしましょう。

圏地域起こし推進課 (☎831-4926、☎877-2299)、安佐南警察署 (☎874-0110、☎871-3619)



### 区内交通事故発生状況 (物損事故を除く)

今年1月から3月末までの交通事故発生件数(人身事故)は、昨年に比べ減少しています。しかし、依然として負傷者は100人を超えています。特に新学期が始まった4月から7月は、登下校中などの児童・生徒が関係する交通事故が多く発生する時期で注意が必要です。

安佐南警察署管内 3月末現在	人身事故		
	件数(件)	死者(人)	負傷者(人)
令和2年1月~3月	110	5	140
令和3年1月~3月	90	0	104
前年対比(件数)	-20	-5	-36

### 交通事故を防ぐためにできること

#### 車両

- ・横断歩道の手前では、歩行者や自転車の有無をしっかり確認しましょう
- ・横断しようとしている歩行者などがいるときは、必ず手前で停止しましょう
- ・夕方は、早めのライト点灯とハイビームを活用しましょう

#### 歩行者

- ・道路を横断する際は、横断の前にひと呼吸おいて左右をよく見て安全を確認しましょう
- ・交通ルールを守りましょう
- ・夕暮れから夜間、早朝はLEDライトや反射材を活用しましょう

### 「みんなで歩行者事故ゼロプロジェクト」実施中!

県の全交通事故死者数のうち、半数近くが歩行者となっています。運転者だけ、歩行者だけではなく、「みんなで」プロジェクトに取り組み、悲惨な事故をなくしましょう。



#### ●「みんなで」知りましょう

歩行者と車両(乗用車・トラック・バイクなど)の事故が多く発生している

#### ●「みんなで」気をつけましょう

歩行者死亡事故は、車両側だけでなく、歩行者側の交通違反や不注意によるものも少なくありません

#### ●「みんなで」取り組みましょう

社会全体で歩行者事故ゼロを目指して取り組みましょう



県警察反射材活用促進キャラクター「キラリ☆マン」

昨年、安佐南警察署管内では、県下で最多となる10件の交通死亡事故が発生しました。その内7件の事故で歩行者が亡くなっています。

一人一人が当事者意識を持って、交通安全を実践しましょう。

### 地域による渋滞緩和に向けた取り組みが行われています



祇園・山本地区では、国道183号の西原一丁目交差点を先頭に朝の通勤・通学時間帯に渋滞が発生しています。

春日野学区社会福祉協議会と春日野連合自治会では、渋滞緩和に向けた取り組みを呼び掛けています。皆さんも可能な範囲で時差出勤などに取り組み、快適に通勤しませんか。また、区でも、渋滞緩和に向けた取り組みとして、西原一丁目交差点の改良や車線の増設などを検討しています。

圏地域整備課 (☎831-4961、☎877-7749)

#### (1) マイカーによる時差出勤

春日野南バス停～山本口(北)交差点までの通過時間

出発時間を少し早めることで、渋滞を回避することができ、通勤時間の短縮につながります。



調査日:令和3年1月22日(雨)

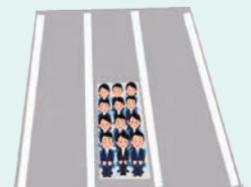
#### (2) 公共交通機関などの利用

それぞれがマイカーで移動するのではなく、1台のバスに乗車すれば、渋滞が緩和するだけでなく、CO2排出量の削減にも効果があります。(イメージ)

①12人がマイカーで移動

②車を取り除くと

③12人が1台のバスに乗車



### 区長新任あいさつ



安佐南区長  
うえたけ ながこ  
植竹 良子

このたび安佐南区長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

安佐南区は、丘陵部を中心に住宅団地が拡がり、平地部では大型商業施設などの利便施設の集積が進んでいる一方、緑豊かな自然にも恵まれている暮らしやすい街で、約24万人の方が暮らしておられます。

昨年度、安佐南区では、「安佐南区まちづくりアクションプラン」を策定し、区の魅力向上を目的とした各種イベントの実施、平成26年8月の豪雨災害の教訓を踏まえた地域防災力の向上や

誰もが安全・安心・健康に暮らせるまちづくりの推進、自然と共に豊かに暮らし、自然を通じて人々が交流するまちの実現、大学と地域の交流・連携の促進などに取り組むこととしています。これらの推進には、住民や地域団体、企業、NPOの皆さんの参画が不可欠であり、地域全体が協働して実施することが重要であると考えています。

地域の皆さんと対話を重ねながら「住みやすさ・暮らしやすさを実感できるまち」を目指し、職員一丸となって取り組んでまいります。引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。